授業科目名	開講年次	開講期間	単位数	授業形態	授業場所
がん看護学特論Ⅱ（がん看護理論）	1	前期	2	講義30時間	横渚

担当教員	岡本明美、千葉恵子
授業概要	がん患者とその家族に対する看護介入に適用される主要な概念・理論についての理解を深め、実践への活用について探究する。
到達目標	６．がん患者とその家族を理解するための概念・理論について説明できる。 ７．がん患者とその家族を理解するための概念・理論、最新の看護研究結果を用いて、看護実践について検討できる。
履修条件	特になし

授業計画

回	内容	担当教員
1・2	ストレス・コーピング理論の理解と活用	岡本
3・4	危機理論の理解と活用ーフィンクの危機理論	岡本
5・6	危機理論の理解と活用ーアギュレラとメジックの危機の問題解決モデル	岡本
7・8	セルフケア理論の理解と活用	千葉
9・10	自己概念の理解と活用	千葉
11・12	悲嘆・喪失の概念の理解と活用	千葉
13・14	自己効力感の理解と活用	岡本
15	がん患者とその家族の個別の問題解決を図るための概念・理論の実践への適用する上での課題	岡本

教科書	なし
参考書	野川道子：看護実践に活かす中範囲理論、第２版、メヂカルフレンド社、2016. 小島操子：看護における危機理論・危機介入　フィンク／コーン／アグィレラ／ムース／家族の危機モデルから学ぶ、第４版、金芳堂、2018.
評価方法・基準	授業への参加状況(20%)、作成資料(40%)、プレゼンテーション(40%)を総合して評価する。
事前・事後学習	事前学習：授業概要を参考に、それぞれの課題に対して文献および研究論文による学習を行い、資料を作成し、発表・討議に臨む。 事後学習：学習内容のがん看護実践への適用について検討する。